

平成29年度 地域でつながる家庭教育応援事業

親子の学び応援講座 (本宮第二中学校区PTA)

日時：平成29年6月24日(土) 14:00~15:40
場所：本宮市立本宮第二中学校 体育館

講演「スマホ・SNS時代に育つ子どもたち」～保護者のできること・すべきこと～

講師 茨城県メディア教育指導員連絡会 鈴木 慶子 氏

スマホやSNSが子どもたちの生活の中に広く浸透しており、使い方によっては、学習や生活に及ぼす影響が懸念されている。そこで、鈴木氏の実例をもとにした講演を通して、保護者自身がメディアコントロールの重要性を学び、スマホやSNSの正しい使い方を親子で話し合うきっかけとするために、テーマを設定し当講座を実践した。

1 講演の内容

- スマホやSNSが人と繋がる手段となっている現代。インターネットでは、同じ思考の人・同じ嗜好の人・同じ志向の人とだけ繋がりがやすい。また、「日常を共有していない(ネットだけで繋がる)相手だから本音が言える」という人も多い。
- 少し前までのテレビや新聞・本などが主流だったマスメディア時代、私たちは情報に対し「受け身」であった。しかし、インターネット時代の今は、受信だけでなく、簡単に情報発信もできるようになった。
- 本宮二中学区の統計を見ると、携帯やスマホの所持率は低い。しかし、ネット利用をしている児童生徒は多いという結果がある。親の携帯やスマホを使っている例が多いということになる。ネットトラブルに巻き込まれないためにも、親が子どもの使用状況を把握しておくことが重要である。
- スマートフォンをはじめとするインターネット機器の長時間利用が、視力・聴力・姿勢など、健康にも影響していることが懸念されている。
- スマホやSNS利用が前提の生活様式の中で子どもたちは育っている。ラインやツイッターはすでにインフラになっている。一方で、ラインなどの過剰な繋がりに疲弊したり、情報の広がりによって右往左往したり、常に緊張感をもっているのが現状である。知識の少ない子どもが大人と同じようにメディアを使っている。時代の流れで全く使わせないのは非現実的であるし、子どもは失敗しながら学ぶものでもある。だからこそ、保護者(大人)としてできること(①ルール作り②フィルタリング③手本を示す)をしっかりと行うことが求められる。
- 軽はずみで不適切な行動を、動画や画像としてインターネット上に公開してしまう事例も多い。発信者のコントロールが及ばないほどに、あっと間に拡散してしまった情報は、取り消すことができなくなる。結果として、未来の自分を傷つけることにもなる。



- 機器を渡す前にまずルール。親からの一方的なルールを子どもたちは受け入れられないし、守れない。予想される危険と対処法について家族で話し合い、みんなでルールを決めていく。ルールが守れなかった時のペナルティは子どもが自ら考え、自分で決めるようにする。
- スマートフォンのみならず、携帯ゲーム機・学習用タブレット・携帯音楽プレーヤーを介したインターネット利用も多く、トラブル事例もある。「うちの子はネット利用をしていないから大丈夫」と思い込まず、保護者は、各機器のフィルタリングやセキュリティ対策を行う必要がある。
- スマホ時代に求められる力は、「判断力・自制力・責任力」。子どもたちは、使いながら、失敗しながら、そのチカラを身につけていく。
- ながらスマホ、軽はずみな投稿などは、子どもたちだけでなく、大人の使い方の課題でもある。子どもたちに、安全で安心したネット利用の手本を示すために、我々大人は、「流されない力」を身につけていくことが求められる。



※ 具体的な事例をもとに、メディアコントロールに向けて保護者ができることやするべきことを話していただいた。説得力のある講話で、参加者も熱心に聞き入っていた。

2 参加者の声

- スマホ・SNS時代の今、危険がすぐそばにあるということを痛感しました。便利なものとして考えていたものが、いろいろな危険なことに発展すると知り、怖さを感じました。子どもたちに今日の研修内容を話し伝えながら、(子どもたちを)守っていきたくて思いました。
- 一般的な知識だけでなく、実際の子どものやりとりなど、現実にあった出来事等も教えていただいたことが、とても参考になりました。これからの数年後、直面してくる内容だったので、教えていただけてとてもよかったと思う。ありがとうございました。
- 情報機器の利用について、親や教師が知らなければならないとは思っていましたが、小さい頃から子ども自身も知っていなければならないことがたくさんあると思いました。
- 親が手本になるということ。自分ができていないと改めて痛感しました。今一度、家族でルールを決めて取り組んでいきたいと思えます。
- 家にネット環境がないので、今すぐの活用というよりは、いつかのために話を聞かせていただきました。いつか(携帯やスマホを)持たせるときは、子ども任せにせず、しっかり見守りをしたいと思います。「ペナルティは親が決めずに、子どもに決めさせる」というのが、とても参考になりました。
- 情報が消せないこと、情報が拡散されること、とても怖いと思いました。親子でルールについて話し合いたいと思えます。
- 子どもと話し合って、携帯やゲームのルールを決めようと思えます。ルールを作る目的はトラブルを防ぐことなので、親の都合でルールが変わることのないようにしたいです。
- スマホは与えなければいいと思っていました。けれども、それだけでは何にもならないと痛感しました。まずは、しっかりと知識をつけること。親が無知ではだめ。子どもにダメだダメだとただ言っているだけでは、逆に隠れてどんどん悪い方向に行くんだと感じました。自分のスマホの使い方考えさせられました。
- SNSについて、分かっているつもりでも、使用する限り危険があるのだと実感しました。子どもにも、今日の内容をしっかり伝えて、どのように使用しているのかを確認したいと思えます。
- 子どもにどうさせるか、どう使わせるか、そればかりを気にしていたが、大人の方がまず手本を見せる。知識や意識を向上させることが必要とあり、ハッとしました。